



HOPE ASCENDANT

SHIZUOKAJOHOKU HIGH SCHOOL



校長だより FOR STUDENTS

2026.06.01



大切にしてほしいこと

挨拶

みなさんに、最初の校長だよりで「**凡事徹底**」についてお伝えしました。これは、「特別なことではなく、当たり前のことを、当たり前に、徹底して行う」という意味ですが覚えていますか。

時間を守る。

整理整頓をする。

人の話をしっかり聞く。

そして、挨拶をする。

そのような“小さな当たり前”を大切にしてほしいと思っています。

これらの中で、私は毎朝、自分から挨拶をしようと心がけています。元気よく返してくれる人もいます。会釈をしてくれる人もいます。恥ずかしくて声が出ない人もいます。しかし、挨拶は単なる形式ではありません。

「あなたの存在を大切に思っています」

「今日もよろしくお願ひします」

そんな気持ちを伝える、小さなコミュニケーションです。

入学式で1年生の皆さんに森信三さんの「**人間は一生のうち、逢うべき人には必ず逢える**」

という話をしました。人との縁は、ある日突然生まれるものではありません。毎日の何気ない言葉や態度の積み重ねの中で育っていくものです。

「おはようございます」

その一言が、人とのつながりの第一歩になります。

最初から大きな声でなくてもかまいません。

まずは、相手の顔を見ること。

会釈をすること。

小さな声でも返してみることに。

そうした一歩を積み重ねることが、「凡事徹底」につながり、学校全体の温かい雰囲気をつくっていくのだと思います。

みなさんの挨拶が増えることで、この学校が今よりさらに、互いを大切にできる場所になることを願っています。



最近読んだおすすめ本

イン・ザ・メガチャーチ
朝井リョウ(著)

イン・ザ・メガチャーチは、「推し活」という、身近なテーマを扱った作品です。誰かを応援することは、本来とても楽しく、力をもらえるものです。しかし、この作品は、その気持ちが少しずつ大きくなり「推すこと」が生きがいになりすぎたとき、人はどうなってしまうのかを鋭く描いています。

この作品を読んでいると、今のゲームやSNSにも似た仕組みがあることに気づきます。「あと少しで次に進める」「限定イベントがある」「毎日ログインしたくなる」そうした仕掛けは、人が夢中になるように、とても巧みに作られています。もちろん、ゲームや推し活そのものが悪いわけではありません。しかし、自分で「どこまでなら楽しめるか」を考えずにいると、いつの間にか時間や感情を大きく支配されてしまうことがあります。

この本は、「推し活は危険だ」と単純に否定する作品ではありません。むしろ、誰かを好きになる気持ちの尊さを描きながら、その一方で、“夢中になること”との向き合い方を問いかけてきます。

今の時代を生きる高校生にこそ読んでほしい一冊です。